

若い世代にも防災意識を



〈執筆者〉

須磨消防団 第1分団

分団長 宮本 幸博

山陽電鉄・阪神電鉄・神戸市営地下鉄の「板宿駅」がある須磨東部地域の中心に、われわれの須磨消防団第1分団があります。周辺は商業地と住宅街で構成され、分団員の半数が商店街に店を構える店主です。

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災時は、市場や商店街がリニューアルされた後であり、幸い、わずかな被害で済みました。そのため、周辺地域の被災者の方々が集まり、市立板宿小学校は、約2千人余りの住民の避難場所となりました。当時は、停電し、真っ暗な中で余震の恐怖を感じながら、学校内外や地域の市場、

商店街、さらに周辺の町内会を巡回するなど、分団員全員が昼夜を分かたず、被災者の支援に全力を尽くしたことを思い出します。

さて、この板宿地域では、防災訓練、避難訓練、消火訓練などが定期的に行われており、第1分団員は、その指導や援助にあたっています。また、わが地域は須磨区内においても水害の危険度が非常に高い妙法寺川があり、がけ崩れが発生しやすい地層でもあるため、分団員は豪雨や大雨が降れば、その都度水位の測定を行い、警戒の任にあたっています。

時には、地域の防災委員会の方々とともに、妙法寺川のせきを止めて放水訓練を行ったり、小型ポンプ操作法などを勉強しあうこともあります。また、板宿小学校4年生の防災についての勉強にも協力しており、分団の見学、消防団活動内容の説明、

河川敷での放水見学と放水体験、防護服やヘルメットを着用しての実務体験など、楽しく勉強してもらいながら、交流を深めています。このような経験を通して、幼いうちから防火・防災の意識を高めてもらえたらと思っています。

昨今は団員数が減少しているため、各方面の皆さまにご協力いただき、今後、実際に災害が起きた場合に、直ちに対応できる人材を確保するべく、奔走しています。近いうちに起こると予想されている南海・東南海地震に備えて、地域住民、各種団体と、今後ますます交流を深めて、防災力の向上に努めていきたいと思っています。

